



い き な 身 近 な 数 理 を 著 す 芸 人 の 街 関 西 よ り

個性が現れたもの。日本人一億人い
ればそういう人は、どこかにいます
よ」。

昭和23年生まれ、団塊の世代で
ある。昭和42年に京都大学へ進学。
「数学は好きだったが、大学へ入っ
た途端にやらなくなってしまった」。
4年間は、学生運動中心に過ごす。

卒業後、日本アイ・ビー・エムに
入社。当時は、組合はもちろん、ピラ
配りすら認められていなかったため、
一層刺激されて組合活動を始めた。

入社して3年目に入ろうとしたと
き、日頃の激務と組合活動が重なっ
たためであろうか、過労で病に倒れ
る。このことが転機をもたらしたの
か、「大学4年間は勉強しなかった
けれども、会社の10年間は『スミル
ノフ高等数学教程』全巻をこつこつ
勉強しました」。以前から数学セミ
ナーの読者であったが、この時期を
境にして、雑誌への投稿という形で
論文を発表するようになる。

日本アイ・ビー・エム時代、会社
からは認められていない組合活動を
し続けた。12年目によくやく会社
側が理解を示し、組合活動が正式に
認められた。また世の中の風潮とし
て、若者の政治離れが目立ってきて
おり、組合活動も目標を失いつつあ
った。昭和60年退社。大阪経済大
学で情報処理の講義を受け持つこと
になり、現在に至っている。

3年前、「予測式電子体温計」の誤
差を扱った論文が新聞、テレビにも
取りあげられて話題になった。大学
の講義でも身近な話題について学生
に問題を出し、予想した答えと違っ
た答えが出るのを楽しんでいること。

「関西は芸人の街ですから、少々
のことではうけませんね」。今後も
関西人の目に堪えうる珠玉の作品が
期待できることだろう。 [編集部]

反主流的な人である。と言っても
亜流でも、傍流でもない、独自流と
でも言おうか。西山さんの独自流は、
その生き方に集約されるのであるが、
こと数学に関して言えば、流行にと
らわれることのない「身近な数理現
象を大切に扱う」という姿勢である。

2月に『サイエンスの香り』(日本
評論社)が出版された。処女作“ス
ーパー・スピロ・マジック”が収め
られている『卵はなぜ卵形か』(日本
評論社)から3冊目になる。「数学セ
ミナーの記事を見て、これだったら
もっとこんなおもしろい記事がある
のではないか」と思い“スーパー・ス
ピロ・マジック”を書いたんです

よ」。身近なおもちゃ(スーパー・ス
ピロ・マジック)が描く複雑な図形
の感動をもとに、数学的解釈を易し
く解きあかしている。じつは、この
短編を8社余りの雑誌に投稿したと
ころ“数学セミナー”1社に「ひっか
かった」とのこと。

最近の雑誌をにらんで、「プログ
ラムのリスト、グラフィックまたは
式ばかりを載せるのは、誌面稼ぎに
すぎない。式あり、絵あり、文あり
の3つがバランスよくとれ、テー
マも身近なものを選んだ記事が良い
のではないか」、「いま本当に求めら
れているのは、自分で考えた、オリジ
ナリティのあるもの。その人の持つ

特集

0から

1まで